

内郷村報

發行日一回一月毎
 部一價定 部一價定
 共共 共共
 二二 二二
 四四 四四
 活活 活活
 版版 版版
 所所 所所

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

家一門所せまき迄に着席し、いさも嚴肅莊嚴な式結婚が舉行せられた。余は感喜感激の余り、神前に罷り出でて、祝辭を述べさしていただいた。

一、對さしふ可きであるが、新夫婦を讚美し、それから教養ある御兩人に向つて、敢て教訓がまじき事はいはない、聊か希望を

は披露宴の會場たる料亭清月内にせられた。見るに御手傳を兼ねての町内親戚の方々、御近所の人々(時節柄多くは引酒ですまされた由)とて六七十人、大廣間一

背後は床の間で、それに朝日の幅がかけられてあつたのよ。之が天地人の三光、時にさつてふさはしき景物だ。よ呵々。大体當夜の模様

かりだ。あまりなかつたから今日は之れで失禮する。此一章は君の御一族、恩師服部博士はじめ君の先盟諸子並に友人各位にも御一讀していただきたいと思つて居る。(十一月二十七日夜稿)

半杓橋の由來

はんしやくきょう

杓橋とは、曹洞宗本山永平寺境内の、滾々盡きざる清流に架せられた橋の名である。開山道元禪師が、毎朝酌み上げし一杓の水の、半杓を以て洗面口漱に用ひ、残した半杓の水は之を衆生積徳の爲とあつて流にかへされたといふ事がある。其橋の名の由來である。まことに尊い話である。よく金を湯水の如くつかふなどといつて、湯水其ものはいたつて價値のないもの、様にいはれてあるが、一滴の湯水と雖も、其成因由來を考へて見れば、それこそ容易なものではないのである。見渡すところ我盤炭全山では、到處湯水が配給されてあつて、栓をひねれば立どころに所要の湯水が得らるゝので、之が配給にはどれ丈の費用や人手が

評定は巴里、仕事は滿洲。

(民惠)

現内閣は統制者がない。各省殆ど銘々の運動を勝手次第になしつゝあるではないか。特に外務と軍部に於て尤も然りとす。事實をいへば各省はあつて、百五十圓の借金をそのまゝ、妻と三人の子供をおさざりにして逐電したのであるが、余は本人は鬼にやうな心根のやさしきうたれた。これある哉と感嘆之を久うしたのであつた。もう一つの話は、數年間何れと面倒を見つてやつたある男が、是非事務の方につかつてくれといふので、親子四人の一家を引きとつてやつたのであるが、彼等夫妻は揃へも揃つて虚榮心が強く食物や仕事には勿論、事毎に不平たらしく、勿体ないとか、忝けないとかいふ様な考は微塵もなく、いさゝか言ひ聞かしても反抗するばかりで、果ては會員等に對して善からぬ事を吹き込む様子なども見えたので、斷然暇を出し、解雇手当として、在職月數四ヶ月分の俸給を與へ、此金のあつたうち職を求めよ、但し君等夫婦は報恩感謝の念なく、勿体ないといふ事を知らない、之を改めなければ乞食となるの外はない、乞食となつて始めて目が醒めそれからでなければ眞人間となる事は出来ないのだ。何れ眞人間となつた時に、再びお目にもかゝらうし、援助もしやう云々と、彼に餓別の辭を贈つたのであつた。彼は其後一年有余、余に乞食になるといへられたのを奮慨し、職を求め商賣をあさつたが遂に職は得られず、商賣をしても元を食ひ込み、問屋には迷惑をかけた。一家着のみ着のまゝ、の乞食の如き見すばらしき姿で僅かのつてをたよりに、北國さして落ちのびたといふ事でも、あまりにも早く余の豫言的中したたのである。余は昭和六年の最終刊を編輯するに當つて、遠く道元禪師の高僧の如く、報恩感謝の日々をしのび、近き身邊の人の如何に尊きものなるかを痛感し、過去一ヶ月間後援者各位、讀者諸士の深甚なる同情と擁護の下に一回の休刊もなく之を發行するを得、六大使命の一端を果さしていただいた事を深く謝しつゝ、ここに筆を納むる事としたのである。

煩はされてあるかなど考へる人は、恐らくは幾人もないかと思はれる。されど一度山を去つた人々が、山に居れば湯水には不自由はないのだが、山に居れば湯水は山にあり、山にあり難味がない。山にあり難味がないといふ話は往々聞かされるのである。かうした事を考へる時に、我々は例へて一滴の湯水も、之をゆめおろそかにしては、冥加がつかざる事は當然であるが、さうした考へが起らないが故に、うたつたががらすに、一生を終る様になるのではなないかと思はれる。凡そ人間は今日ある事を感謝し、おかげ様で、あゝ勿体ない忝けないとい

角妻子は同情すべき者だと思つて、彼の行衛のわかる迄暫くの間、扶養してやつた事があつたが、近頃聞けば彼は某炭礦に居つて、長男も働かなくなり、とにかく不自由なく暮して居るの事であり、且つ最近彼を訪ねた人の話によると、彼は會長(余の事)の恩は決して一生忘れぬ、實に勿体ない相濟まない事をした。俺はあの時以來、かうして毎日禮拜して居るのだと、

余の心を大書して、神とあがめて床の間に掲げてありそれも年ふりたる爲に、眞黒くなつて居つたが、眞新しき紳と御飯とが供へられあつたこの事である。余は之を聞いて、もよより神にあがめらるゝなどは、おもはゆい事であり、そんな資格のない事は勿論なれども、心根のやさしきうたれた。これある哉と感嘆之を久うしたのであつた。もう一つの話は、數年間何れと面倒を見つてやつたある男が、是非事務の方につかつてくれといふので、親子四人の一家を引きとつてやつたのであるが、彼等夫妻は揃へも揃つて虚榮心が強く食物や仕事には勿論、事毎に不平たらしく、勿体ないとか、忝けないとかいふ様な考は微塵もなく、いさゝか言ひ聞かしても反抗するばかりで、果ては會員等に對して善からぬ事を吹き込む様子なども見えたので、斷然暇を出し、解雇手当として、在職月數四ヶ月分の俸給を與へ、此金のあつたうち職を求めよ、但し

君等夫婦は報恩感謝の念なく、勿体ないといふ事を知らない、之を改めなければ乞食となるの外はない、乞食となつて始めて目が醒めそれからでなければ眞人間となる事は出来ないのだ。何れ眞人間となつた時に、再びお目にもかゝらうし、援助もしやう云々と、彼に餓別の辭を贈つたのであつた。彼は其後一年有余、余に乞食になるといへられたのを奮慨し、職を求め商賣をあさつたが遂に職は得られず、商賣をしても元を食ひ込み、問屋には迷惑をかけた。一家着のみ着のまゝ、の乞食の如き見すばらしき姿で僅かのつてをたよりに、北國さして落ちのびたといふ事でも、あまりにも早く余の豫言的中したたのである。余は昭和六年の最終刊を編輯するに當つて、遠く道元禪師の高僧の如く、報恩感謝の日々をしのび、近き身邊の人の如何に尊きものなるかを痛感し、過去一ヶ月間後援者各位、讀者諸士の深甚なる同情と擁護の下に一回の休刊もなく之を發行するを得、六大使命の一端を果さしていただいた事を深く謝しつゝ、ここに筆を納むる事としたのである。

一村を擧げて

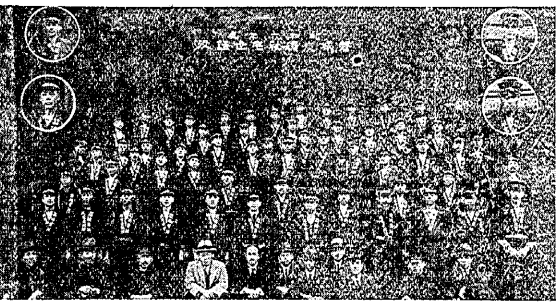
滿洲駐屯軍慰問

滿洲事變突發して、日支兵を構へ、我忠勇なる將士が、零下三十度の寒野に、勇戦苦闘するの報傳はるや、全村之が慰問に狂奔するに到りたるを以て、村役場、警炭勞務課及本社に於て、之が受付を開始したるに、本日迄の申出者は左の通りである。

金二七圓八七錢宮澤社宅親和會員五五四名。慰問袋二個價格三圓六二錢綴坑撰炭場眞壁實古川一郎川合アサ外二九名。慰問袋五個價格二圓五錢、寺島眞佐子。金十圓並慰問袋四八個價格三一圓二〇錢、高坂坑撰炭場藤田友次郎齋藤小佐司伊藤廣吉曲山福信舞木平吉高橋宇助伊藤スエ若松シナ小西キヌ渡邊テツ外二二七名。金五三圓一六錢、御殿親和會員六四一名。金二五圓三〇錢、徳田福次郎菊地正春外六〇名。金二五圓一九錢綴坑千葉昌之鈴木銀司佐藤利平治太田昇篠田東吾新居仙太郎齋藤房吉富永東三倉上彦四郎飯尾健太郎今野多門外三百七〇名。金五圓警炭青年會員二六一名。金十

以上にして

方面の分は幾分を警炭割き社内從軍者家族に贈呈する議あり、其大部分は他方面と共に恤兵部に送る事に決定し、尙會社よりは同家族に對し封つつを贈る事に決定手配中の由。



役話世度年六るたれさ彰表

宅世話役の表彰式舉行。田中義枝書記の辭、君が代合唱、菅原所長、勅語奉讀並謝狀記念品並寫眞贈呈、濱崎勞務課長挨拶、會田院長大内民惠來賓祝辭、增澤氏總代答辭、田中宇一郎書記閉會の辭の順序で第一式は樋口雇員の席次整理で慰勞宴を開催。菅原所長公務の爲退席したるを以て、濱崎課長代つて挨拶を述べ、宴酬なるに及んで、同課長例の治者は治に居てを獨唱し次いで全員に合唱させ、順送り指名で、會田院長大内鈴木(寅)伊藤と、禿頭五人男が壇上に立つて、各一藝を演じて一同をうならせ引きつづき何時の間にか鶴田顧問彈手踊手を帶同しの出場、長唄娘道成寺を手に難色あつたので、鶴田に變更、黒人はたしのよい喉で唄ひ、ばらのさばき、舞の手振り相俟つて、此方でも顧問だ、満場を惚たらしめ、それにつづき、小野三澤浦生石橋鈴木千葉井上湊の諸豪何れも指を披露し、及び、銘々特意な喝采を博し、一同歡を盡して同六時萬歳聲裡に解散した因に七年度世話役氏名は次

世話役表彰

十一月三十日午後一時より集會所に於て、六年度社

スポーツ

此の度、新たに、初めて此處にスポーツ欄が、産ぶ聲をあげました。我が警炭礦スポーツ界の更生と共に、この村報内にも一つの千寶が生れたわけです。皆様のスポーツに持たれる熱意御關心の溢る、御様子をお知らせして、その動靜を簡單ながらお報告すること、時にふさはしい、決して無意味なことでもないことを悟り、茲に皆様の最も親しみおすべき、スポーツ欄を設けることに致しました。

諸君が率先して募集したる慰問金を留守師團に申出たところ、恤兵部にこの命があつたので、左様變更したから御承知下さい。

教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

淺野翁の墓參

十二月六日願成寺を事務

共濟會員募集

諸氏に一日奉仕したる上に金壹圓の寄附を申し出た

我國教育學界の權威

京大教授小西重直博士 書を寄せて曰く、多年、御體験下實地ノ御試練ニ基テ直學學國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テ申候云々。

日本評論社

發行所 東京、内堀和ビル 東京、内郷村報社

俳句

麥苗吟社 移り住みて庭そのまゝ、や冬隣り 南波 白眠

